メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
会報メール　第 135 号
〔2022 年 12 月発行〕

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。
JAM より、2022 年 12 月号の会報をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。
支援者の皆様へ JAM の最新の活動を２カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞

賛助会員の皆様へ　会員更新のお願い

賛助会員の皆様へ　JAM オリジナルカレンダーをお届けします

現地（メソト）から

国内から

国際保健医療協力のなかで（53）

編集後記

次号の予定

賛助会員の皆様へ　会員更新のお願い

平素よりメータオ・クリニック支援の会（JAM）の活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
この度、賛助会員の皆様へ会員の更新をお願いしたく、ご連絡いたします。

当会は**賛助会員の更新時期を年末に揃えさせていただいております。**
そのため、**会員期間は、今月末の令和４（2022）年 12 月末をもちまして終了**となります。

引き続きご支援を賜りたく、ご賛同いただける方は下記の要領にて会員更新の手続きを宜しくお願いいたします。

更新の対象となる皆様には、年内に JAM オリジナルカレンダーと共にご案内の文書を郵送いたします。ご不明な点は、事務局（support@japanmaetao.org）までお問い合わせください。

更新の対象となる方：令和３年７月～令和４年６月までに入会および更新いただいた皆様

半年以上前に新規入会および更新のお手続きがお済みの方につきましては、会員期間は、今月いっぱい、令和４（2022）年１２月末をもちまして終了となります。
更新いただける場合は、お手数ですが令和５年１月末までに手続きをお願いいたします。
更新後の会員期間は**令和５（2023）年 12 月末まで**となります。

すでに会員期間が過ぎてしまった皆様におかれましても、新たに賛助会員としてご支援いただけましたら大変有り難く存じます。更新期間を過ぎてからお手続きをしていただける場合は、お手数ではございますが、当会ホームページより新規の方法でお手続きください。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きはご不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

■下記の年会費をお振込みください。

＜年　会　費＞
一般会員：　３，６５０円／年
学生会員：　１，８２５円／年
法人会員：３６，５００円／年

＜振込先口座＞
ゆうちょ銀行（銀行コード 9900）
支　店　名：〇一八（ゼロイチハチ）
口座名義：NPO 法人 メータオ・クリニック支援の会
（カタカナ）　トクヒ）メータオ　クリニックシエンノカイ
口座番号：10140－8960841
＊他行からのお振込みの場合　普通 0896084

＊ホームページ（www.japanmaetao.org）から**クレジットカード決済も可能です。**
「あなたとできること」→「賛助会員になる」の下「クレジットカードによるお申し込みはこちら」へお進みください。

※ 当会が入金の確認をもって手続き完了となります。メールにてお知らせいたします。

■注意事項
・住所、氏名、メールアドレスに変更がある場合
・振込名義がご本人でない場合
→事務局（support@japanmaetao.org）までご連絡ください。
（ご住所は、12 月にカレンダーをお送りさせていただくために使用します）

賛助会員の皆様へ　JAM オリジナルカレンダーをお届けします

今年も、ご好評いただいている毎年恒例の JAM オリジナルカレンダーを作成しました。
賛助会員の皆様には、当会にご登録いただいているご住所あてに発送いたします。年内には到着予定です。

更新の時期が来ている方には、カレンダーと共に更新のご案内の文書を同封させていただいておりますので、お手数をおかけいたしますが、どうぞ引き続き、更新のお手続きをしてくださると幸いでございます。
万が一、年が明けてもカレンダーがお手元に届いていない場合は、お手数をおかけいたしますが、事務局までお問合せくださると助かります。

現地（メソト）から

【メソト：有高　奈々絵】

時のたつのは早いもので、メソトではクリスマスの飾り付けがちらほら見られるようになりました。一方、隣国のカチン州やカレン州、ザガインなどでは戦闘が続き、タイ側に逃れてくる人は増えるばかりです。メソトでも新しいミャンマーレストランが続々とオープンするかたわら、不法滞在のミャンマー人が拘束されたというニュースを、以前より少し頻繁に耳にするようになりました。

私の 2022 年は JAM 初、個人的にも人生初の大型プロジェクト、NGO 連携無償資金協力による「タイのミャンマー人移民を対象とした新型コロナウイルス感染症に関する人道支援事業」とともに始まりました。

計画を立てた昨年は、コロナはまだタイでも医療上、社会上の大問題でした。しかし、ワクチン接種の普及、感染対策の徹底などにより今年６月からは新規感染者が 1 日 3,000 人ほどと、ピーク時の 1/10 に減少しました。その後、タイ政府はコロナはもはや危険な感染症ではないと宣言し（現在は Communicable disease under surveillance、監視下にある感染症と定義されています)、コロナに係るほぼすべての規制を撤廃しました。全感染者数ではなく入院患者数のみが報告されるようになり、罰金付きの義務だったマスク着用も推奨に変わり、外国人の入国規制もなくなりました。

観光立国のタイがこのタイミングで経済を優先したのは理解できますが、その矢先の 10 月、メソトではコロナのちょっとしたアウトブレイクが起きました。メータオ・クリニックで検査し陽性になった人数は 9 月まで毎月 30 人ほどでしたが、10 月半ばから 1 週間に 18 人、翌週は 68 人と急増、なんとメータオ・クリニックのスタッフが半数近くを占めていました。メータオ・クリニックは昨年夏に大規模な院内感染を経験しているため、その教訓を生かし、いったん緩和していたクリニック内の感染対策（医療スタッフの定期的な抗原検査など）を直ちに強化しました。また JAM はコロナ対策のプロジェクトを行っていることもあり、コロナに関する意識向上ワークショップを全スタッフに行うよう依頼され、2 週間で計 14 回、300 人以上に対し、ローカルスタッフによるビルマ語通訳を交えてワークショップを行いました。換気のためエアコンが使えず暑い中、一日に何度も説明をするのは大変ではありましたが、グループによって全く違う質問が出たり、意外にも医療スタッフと非医療スタッフの理解度がほぼ同じであったりと、興味深い発見がありました。幸い 11 月以降、メソト全体及びスタッフの陽性者数は減少したため、またいつ増えるかわからないものの、とりあえず安堵しています。

（写真上）　メータオ・クリニックでのワークショップ

（写真上）　メータオ・クリニックが運営する移民学校でのワークショップ

コロナに関するワークショップは、伝統的出産介助者（産婆さん）たちや、Clinical Health

Worker（CHW、最も初歩的な医療者）育成コースや母子保健トレーニングに参加中のミャンマーからの研修生にも行いました。その方たちはメータオ・クリニックのスタッフとは少し違うバックグラウンドを持ち、興味や問題意識も異なることが新鮮でした。

昨年のクーデター以降、国境周辺では怪我人やジャングルでの避難生活でマラリアや下痢性疾患にかかる人が増加し、医療の需要が増し続けています。その結果、CHW のトレーニングを受ける人が、もともとの住民の間でも都市部からの避難者の間でも増えています。彼らにインタビューする機会がありましたが、多くは 20 代の若者でした。トレーニングが終わったら苦しんでいる人たちを CHW として助けたいと、迷いのない笑顔を見せてくれる人、経験を積んだら次のステップの医療職であるメディックになりたいと夢を語る人、家族に会えないのがつらいと表情を曇らせる人、みなさまざまでした。自分が困難な状況にある中でも仲間の力になろうとしているのは、33 年前にメータオ・クリニックが始まった時と同じで、そのたくましさ、優しさに胸を打たれると同時に、なぜ歴史は繰り返すのだろうと複雑な思いもわいてきます。JAM の支援が国境の医療を担う人々、ひいては患者さんの役に立つことを切に願います。

（写真上）　伝統的出産介助者へのワークショップ

（写真上）　研修生へのワークショップ

（写真上）　研修生へのワークショップ

2 月のプロジェクト開始後、JAM は各民族医療団体に多くの医療器具や衛生用品を提供してきましたが、最後にトイレ建設資材一式を 2 団体に提供するという仕事が残っていました。クリニックなどに計 9 個のトイレを新設するために、トイレ本体のみならずパイプやセメント、屋根などすべての必要物品を提供先団体と相談して購入、一緒に運搬するという作業です。トイレは身近で衛生や疾患予防に不可欠なものですが、現地の環境に適し、長く使用でき、かつ建設コストの安いトイレとはどんなものか、知らないことばかりで勉強になりました。建設はこれからですが、多くの人に末永く使ってほしいと思います。

（写真上）　トイレ建設資材の運搬の様子

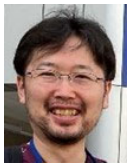
プロジェクト以外の活動としては、タイ北部の患者さんの短期滞在施設で、傷の消毒を行うための処置室の建設を支援しました。その施設には消毒専用の処置室がなく、患者さんのベッドで消毒を行わざるを得ないため、衛生的かつ効率的な処置を行いにくく、またプライバシーの問題もありました。

そのため、JAM に処置室の建設支援の要請があり、JAM が総費用の 8 割ほどの 60 万円を提供し、11 月に処置室および隣接する倉庫が完成しました。すでに毎日消毒に使われており、医療の質の向上に寄与できたと考えております。その費用は、今年 7 月に全日本自治団体労働組合様から頂いた 100 万円から支出させていただきました。ここにあらためて感謝申し上げます。

（写真左・下　２枚とも）　消毒のための処置室

初のプロジェクトに明け暮れた 2022 年が終わろうとしています。昨年に比べミャンマーの混迷は深まっているにもかかわらず、長期化に伴い世界から注目されにくくなっていることを実感した一年でもありました。その中で JAM が活動を継続できているのは、ご支援を続けてくださる皆さまのおかげにほかなりません。今年も一年間、本当にありがとうございました。来年も JAM およびメータオ・クリニックに変わらぬご支援をお願いいたします。そして皆さま、どうぞよいお年をお迎えください。

国内から



【レバノン：渡邊　稔之】

皆さん、こんにちは。日本は急速に冬に近づいていると伺っておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

私は普段都内で医師として働いておりますが、現在は所属している機関からレバノン国内に派遣されています。今回はこちらでの活動の様子をご報告させていただきます。

私が派遣されたのはレバノンですが、働いている病院は難民キャンプ内にあります。支援対象はレバノン国内の難民キャンプにいるパレスチナ難民の方です。JAM の取り組みはメータオ・クリニックを通じてタイ国内のミャンマー難民の医療を支援することですが、私が今しているのは現地の病院を通じてレバノン国内のパレスチナ難民の医療を支援することですので、そういう意味では少し類似性があるかもしれません。気候は日本と同じかやや暖かいくらいで、12 月ですが気温は大体 10-20℃の間くらいです。

私が関わっているプロジェクトは、2018 年から脈々と続いているもので、コロナ前が第一期（3 カ年半)、コロナ後の 2022 年より 2025 年まで第二期（3 カ年）の計画で行われています。私は第二期として活動が再開して 2 人目の医師要員で、多くの医師、看護師の先輩方がつないで来られた 1 つの大きなレバノンプロジェクトのバトンが、コロナによる中断を経て今、私の手にあり、そして次の方にもつないでいかなければならないことに対して責任の重さを感じています。

現地では私は日本から来たというと、皆さん笑顔になり協力的です。いつも会うたびに「Hello, my friend!」と握手を求めてこられる方もいて、見ず知らずの土地で少し不安になっていた気持ちが和らぎ、とてもありがたく感じました。これは今まで現地で活動をしてきた先輩方が、毎日のように直接現地の皆さんとお話をし、メッセージのやりとりをし、一緒に笑い、感情を共有しつつも、患者さんに提供する医療の質を向上させるという共通の目的のために時には忌憚なく意見を言い合うなど、積極的にコミュニケーションを重ねてきたからだと思います。こうして構築された信頼関係があるからこその acceptance で、私もスムーズに活動が開始できているのだと実感します。

言葉が通じ、勝手もわかる日本の病院で活動するのであればまだやりやすくはありますが、私が英語で通訳に伝え、通訳が英語からアラビア語に直して先方に伝え、それに対して先方がアラビア語で通訳に答え、通訳がアラビア語から英語に訳し、、、という過程を経て、言いたいことの 6-7 割程度しか伝わらないというのが実情です。特に英語がわかる・わからないという部分はかなり個人差があり、上手く伝わっているようで上手く伝わっておらず、数日後に実は伝わっていなかったということがわかったり、言い方を変えて同じことを繰り返し伝えてもらってようやく真意が伝わったということも何度かありました。

また、日本でもそうかもしれませんが、何かミーティングなどのイベントに参加を依頼する場合、ただでさえ忙しい中、忘れ去られてしまったり後回しにされてしまうことがあります。そういった場合は、前日や当日の朝、あるいは会うたびに remind するという地道な働きかけが必須だと実感しています。広報する場合も、Key となる責任者（日本でいうところの診療部長や師長にあたる人）に依頼して、スタッフに案内を一斉配信してもらったり、参加を働きかけてもらうと一気に参加率が up する印象でした。このように初めて行った土地で、現地の医療従事者の方と通訳を介して話し合いながら、なるべく参加率や持続可能性を高める

形で活動を実施していくというのは、想像以上に tough ですが、やりがいのある仕事です。

私が現地で行ってきた活動は主に以下の通りです。

・同院の一般内科医向けのレントゲンの講義
・救急外来のスタッフに対する CPR コースの計画・実施
・院内の救急コール（コードブルー）の構築と訓練
・同院の一般内科医向けの超音波の教育の継続方法の模索

2 ヶ月強と限られた時間で、上記の実現のために交渉、調整、院内の見学、コースのスライド・資料作成など同時並行で進めていかなければならず、週末含め非常に忙しい毎日を過ごしてきました。特にレントゲン教育の講義を 5 回に加えて CPR の講義・実技コースなども行いましたが、現地のニーズ・レベルに合わせて英語のスライド（一部アラビア語）をゼロから作り、実施していくことにもとても苦労しました。

上記活動の一環で、同院の救急外来で働いている一般内科医の診断能力の向上という目標の下、胸部レントゲンに関する 1 時間の講義を 5 回行いました。レントゲンは何十年も前から現地にあり、実際に既に使われているものであって、超音波の機械のように新しく持ち込まれた技術ではないので、一般内科医は長年使ってきたという経験とプライドがあります。その中で、「日本から突然来た若造が（実際、参加者はいずれも年上のドクターばかりでした）上から目線で教える」ということはやってはならないことだと考えていたので、あくまで「もう既に使っているものであるが、基礎を一緒に復習する」というスタンスで活動しました。なかなか思い通りに進まない部分もありましたが、その病院で実際に撮られた画像を提示して検討してみたところ、「あぁ、あの患者さんね、わかるわかる」となったり、講義のトピックに絡めて自らの経験を他の参加者に積極的に語ってくださる参加者もおり、想定以上にインタラクティブなものとなりました。

その他の活動に関しても、日本から来た人が全部勝手に一方的にやってくれるので助かる、ではなく、現地の人たちが自分事として主体的に問題に取り組み、我々が去った後も質の高い医療を提供し続けることが可能な sustainable な仕組みを構築するというのは、言葉で言うのは簡単ですが、実際に実現するには非常に困難が伴うことだと感じています。私にとって初めて取り組むことばかりであり、戸惑うことばかりでしたが、非常に多くのことを学ばせていただきました。

上記は私のここでの経験のごく一部で、ここには書き切れませんが、このような大変貴重な経験をさせていただき、高校時代から取り組みたかった難民問題に関わらせていただいているのは、今、関係各位のご理解とご協力があってこそのことで、ありがたく感じています。

現在、帰国間近となっていますが、帰国後も現地の人とのつながりが保てたらと思っています。またゆくゆくはここで学んだことを今後、JAM その他での活動に生かせていけたらと考えています。

☆ JAM 会報の「国内から」のコーナーに寄稿してくださる会員様を募集しています！☆

現在、このコーナーは、JAM スタッフが交代で書いてきていましたが、2023 年の会報から、賛助会員の皆様との交流を目的に会員様からの寄稿も募集することにしました。

メータオ・クリニックや JAM との出会いに関するエピソードなどなど、ぜひお聞かせください。

ご興味のある方は、support@japanmaetao.org（日本事務局宛）までお気軽にご連絡ください。

国際保健医療協力のなかで（53）

【小林　潤】

ワールドカップが開催されているカタールは、実は人口あたりの医師の数が世界一多い国である。WHO の報告によると、１０００人あたり７．７３９人でＳランクである。実はこの医師の多くは、低中所得国から移住もしくは一時的に住んでいる者と言われている。このため医療の質は不確実で、実際よくわからないといわれる。しかし人数が多いだけあって、医療ケアの質は高いと評判である。すなわち、３分間診療ということもなく、丁寧な診療と看護ケアがおこなわれていると推測できる。

日本は１０００人あたり、２．２９７人でＢランク・１４６か国中で５５位、ミャンマーは０．５０１人で９９位・C ランクである。この差をみただけでも、世界の健康格差を感じられると思う。多くの低中所得国では慢性的な保健医療人材不足が課題であり、特に貧困層に保健医療を提供する機関での人材不足は深刻な課題であり、各国は人材育成に取り組んでいる。一方、多くの人材はより給与が高い高所得国に流出する。カタールをはじめとした中東諸国は医師の流出先としては有名で、実は日本からも高度な技術をもった外科医等が引き抜かれていることは意外と知られていない。もし円安が恒常化した場合は、さらに拍車をかけることは多いに危惧される。

ミャンマーはどうだろう。多くの医療者が迫害されていることが続いている。どのぐらいの医師が流出しているのだろう。現在の内戦が終了したとしても、医療人材不足は急には回復せず医療崩壊の状況が続くのではと察する。カンボジアでは、１９７６年から７９年までつづいたポルポト政権では、医師を含む知識層への弾圧が続き、政権が代わってからも極端な医師不足が問題となった。どんなに社会貢献への意志が固い医師でも、迫害が行われれば国境を超えることになってしまうことをだれも非難はできないだろう。

今回の投稿は、筆は進んだが結論を書くことがどうやらできない。ワールドカップで沸くカタールの放映で興奮しながら、最新の競技場が近接してある最もコンパクトなワールドカップとしてだけ報道されていることに何か違和感を感じた。普段から多くの競技場が必要であるわけがなく、ワールドカップ開催のために同じ市内に急増で作ったと考えた。調べてみるとこの競技場はまさに急増で作られていた。そして低中所得国からの移民労働者によって作られ、その労働環境は極めて過酷で人権侵害であったとヨーロッパでは報道されていた。

数十年前に、カタールではないが中東のドバイにトランジットで一泊したことがあった。ショッピングに行きたいとホテルのレセプションで聞いたら「歩いていけ、まっすぐいって３０分」だと聞かされた。外にでて歩き始めたらあまりの暑さにホテルに戻ってしまった。ロビーで汗だくになって休んでいると、同じ質問をしたヨーロッパ人には丁寧に TAXI 呼んでいるのを見てしまった。そのあとに私にもと、なぜかこちらからお願いして、TAXI を呼んでもらった。これでなんとか、ショッピングにいけたのだが、車内から高層ビルの建設現場で多くの東か東南アジア人が４０度を超す炎天下で働いているのを見た。ショッピングでは寿司が売られていたのだが、アフリカ帰りで日本食に飢えていた私は数分間も立ち止まって見入ってしまった。そうするとフィリピン人の店員さんのからタガログ語で声をかけられた。どうやら余っていた寿司を私にあげようとしていたらしい。過酷な条件で働く同郷の男性かと思われたのだろう。日本人ですと英語で答えたら、何か寂しそうな顔をしてサーモンがおいしいよとか説明してくれたと記憶している。フィリピンも南部にはイスラム教の信者が多い地域が多く、これらの地域から中東への出稼ぎが当時から盛んであった。このトランジットの時のことを思い出して今回の起稿となった。

編集後記

今年も、JAM オリジナルカレンダーを作成しました。皆様にお送りする封入作業を済ませ、無事に発送したところで、今号の編集作業をしています。この会報を配信する頃には、皆様のお手元にすでに届いていることと思います。毎年、異なる写真を使っているので、ぜひ、使っていただけると幸いです。更新のお手続きも毎年、お手数をおかけいたしまして、大変恐縮ではございますが、来年も、JAM を引き続き、応援していただけますよう、がんばりますのでどうぞよろしくお願いします。

次号の予定

次号は、2 月下旬ごろ配信の予定です。
最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM の活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会の Facebook もフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1 日 10 円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。
【一般会員】3,650 円/年　　【学生会員】1,825 円/年　　【法人会員】36,500 円/年

当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。

◇◆◇

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Ｅ メール	support@japanmaetao.org
JAM ウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)　で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

◇◆◇